

第 62 回広島県へき地・小規模校教育研究大会の事後研修（三和中学校区）

【研究主題】

ともに学び合いながら理解を深め、主体的に学ぶ子どもの姿をめざして
～アクティビティ型の授業の設定とファシリテーションを活用した指導方法の工夫を通して～

【目的】 研究主題に基づき、さらなる授業改善に向けた今後の取組について、具体的なイメージをもつ。

【日時】 令和6年10月29日（火） 14:30～16:40

【場所】 三次市立三和小学校 図書室

【内容】

（1）県大会の授業・分科会の様子について報告

■小学校1年生

【授業者】

・本時の授業では、たしざんやひきざんの問題づくりを行った。どの児童も楽しそうに学習していた。児童の自己調整力を引き出す指導者のファシリテーションについて、今後も研修していきたい。

【指導・助言等】

・今後に向けて、ともに学び合うことのよさを実感できる指導を心掛け、振り返りで「どんなことができるようになったのか、どんな発見があったのか」という視点を児童に与えておくことで、学び合いの質を高めることができる。



■小学校4年生

【授業者】

・初見の文章を読む際には、視点を持って読むことが大切であることに気づかせたかった。どこが筆者の主張か児童は迷っていたが、指導者と児童、児童相互の対話のなかから児童自身に気づきを持てるようにした。

【指導・助言等】

・今後に向けて、指導と評価の一体化の観点から、学習の成果を児童にフィードバックし、自己調整力を育てることにつながること、ゆるやかな協働からねらいに沿った対話へ児童相互のかかわり合いの質を向上させることが大切である。その際、少人数ならではの効果的なICTの活用も求められる。



■小学校5年生

【授業者】

・授業の大半がまとめる活動となったが、自己調整力、対話、比較する場面を意識して取り入れた。活動は充実していたと考えるが、その中でどのように「評価」し、自己調整力を高めていくのが課題である。

【指導・助言等】

・今後に向けて、地域素材の単元化が重要である。学習したことを生活に生かせるように工夫することが大切である。さらに、身近な事柄を通じて学習内容の理解を図るが、三和町に留まることなく、我が国の工業生産の発展や新しい技術開発等につなげることが必要である。



■中学校1年生

【授業者】

・生徒に多様な意見を出させたいと、この単元を選んだ。円形ボードを使って、場のデザインも行った。まとめるところを、少し強引にもっていったと反省している。今後のファシリテーションに生かしたい。

【指導・助言等】

・当日の授業では、収束場面でいきなり場面が切り替わっていた。さらに生徒たちの思考を深化させるための方法・言葉かけや、生徒の意見を生かした整理にするには、どうしたらよかったのかを考えるとともに、全体交流の深め方について検討して欲しい。



(2) 県大会の授業・分科会の報告をもとに、成果と課題の整理

<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な活動を取り入れたアクティビティ型の授業を推進したことにより、子供が主体的に学ぶことができつつある。 ・評価シートを「つくる」→「使う」→「振り返る」という流れが、指導者にも児童にも自然と身に付いてきている。また、評価シートを活用することによって、児童自身が、「活動の目的」「課題に対する学び方」「目的に対する達成度」を理解・把握することができ、自己調整力の育成につながっている。 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取組が学力定着につながっているのかの検証が必要。 ・事前に準備しすぎて教え込むのではなく、切り返したり、かき回したりしながら子どもの思考を促すようなファシリテーションが必要。 ・子どもが「おもしろそう、やってみたい」と思う問いの設定や、子どもの思考を深める場面の改善が必要。 ・子どもの資質能力をさらに育むため、ICTを効果的に活用したり、様々なファシリテーションを取り入れる等、これまでの取組の質の向上が必要。 	
 <p>グループ協議</p>	 <p>グループ協議</p>	 <p>全体交流</p>

(3) 成果と課題をもとに、今後の取組について検討

- ・全国大会の報告
- ・個別最適で協働的な学びに係る動画（富山市立芝園小学校の実践）視聴
- ・全国大会の報告や動画視聴から、今後の取組について検討

<p>【児童生徒の資質・能力の育成を目指した今後の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもから問いが表出される授業の構築 ・子どもの活動を8割以上にする（否リボイス） ・子どもが学び方を自由に選択できる時間や環境の設定 ・効果的なICT機器の活用 ・任意のタイミングで必要な情報や途中過程を参照できる「他者参照」の導入 		
 <p>全国大会報告</p>	 <p>全国大会報告（提案者・有川教諭）</p>	 <p>動画視聴後、今後の取組について検討</p>

(4) 三次市教育委員 大崎 友子 指導主事からの指導・助言

- ・県大会で公開されたどの授業も、学習指導要領に示されていることを大事にして授業が展開されていた。
- ・目的達成のためのアプローチは様々あるが、子どもの意欲や理解度を高めるためには、子どもの反応を予想した上で、学ぶ必然性を踏まえた単元を構想することが重要。
- ・ICTを活用することで、他者参照できたり協働場面を自己決定できたりする等、自分のペースで学びを進めることができる。また何度もインプットとアウトプットが繰り返され、対話で学びを深めることができる。
- ・どんな力をつけたいのか、何のためのファシリテートなのか、ICT機器を活用するとどんないいことがあるのか等、ねらいを明確にして取組を進めることが大切である。



(5) 次回の小中合同研修会（授業研）で、授業者が取り組みたいこと

- 授業者：三和中学校 教諭
- ・小学校が活用している評価シートを、中学校の理科でも取り入れたい。
 - ・多様な考えを瞬時に比較させる等、ICTを効果的に取り入れたい。
 - ・生徒をつなぐことでコミュニケーションが活性化し、思考が深化するような展開を考えたい。

